

## 東京電機大学中学校卒業式式辞

みなさん、中学卒業おめでとうございます。

また、本日、卒業証書を授与されたみなさんのご両親、ご家族にも教職員一同とともにお祝いを申し上げます。ご来賓のみなさまには、お忙しい中、この卒業式にご出席くださりましてありがとうございます。卒業生一同に代わりお礼申し上げます。

本日卒業されるみなさんの多くは引き続き東京電機大学高等学校へ進学し、この校舎での学校生活を継続されるので、中学校卒業という人生の節目に対する感慨をそれほどは持っていないかもしれません。しかし、義務教育を終了したことで、みなさんは大人へのステップを確実に一段上がられたのです。保護者のみなさまにとっては、子育ての一区切りがついたことへの感慨も一入（ひとしお）ではなからうかと拝察申し上げる次第です。

大人になるとは、親の庇護の元を離れ一人の社会人として自立することでしょう。ご両親は何よりそれを願っておられるはずです。では、自立するとは具体的にはどういう状態をさすのでしょうか。ここで一つの例をご紹介します。以下は、面谷園子さんというおそらく知的障がいがある特別支援学校に通うお子さんを持つお母さんが書かれた新聞投稿の一部です。

（前略）障がい児を育てることは「親亡き後、子どもが安全に暮らしていけるように準備する」という一点に集約されます。多少の不自由さはあるにしても、字や時計を読めるようにすること、お金が使えること、他人に迷惑をかけないこと、危険から身を守ること、余暇の楽しみを持つこと。自立のためには、どれも大切なことです。安定した生活基盤も必要です。そして、年齢を重ねるごとに、さらにあたらしい課題も見えてきます。安定した気持ちで暮らすこと、人の輪の中に入ること。（後略）

この文章の存在を教えてくれたのは、イラストレーター、漫画家の益田ミリさんです。彼女はご自分のエッセイの中で、この一文を「心震えた言葉」として紹介されていました。さっそく原文を探し出しました。わずか600字程度の短い文章でしたが、障がいのあるなしに関係なく、一人の人間が社会の中で生きていく上で、必要なこと大切なことが盛り込まれた素晴らしい言葉だと思いました。本日も臨席の保護者のみなさまも、きっと同じご意見だと思います。子を持つすべての親の願いを凝縮した心震える言葉です。一人で生きていくために必要な生活の知恵、他者と円滑に交流できるコミュニケーション能力、自己を客観的に見つめられる能力、自分にとって大切な軸を持つこと（「余暇の楽しみを持つこと」とはそういう意味だと思います）、そして社会の一員としての役割を果たすこと。自立した生活者として必要なこれらの資質・能力を、みなさんには大人への次のステップとなる高校時代に着実に身につけて欲しいと思います。

さて、もう一つ、別の角度から大人として自立するために身につけておきたい資質・能

力を紹介しておきましょう。それは、いずれ近い将来、みなさんも出て行くことになる実社会、仕事の現場で求められる能力です。企業の人材開発の研究に携わる経営学者に東京大学准教授の中原 淳先生という方がいます。中原先生は企業での働き方や人材育成の研究を通じて、仕事の世界で起こっていることから教育を見つめ直したいと、近年はご自身の社会貢献の一環として教育改革に関わる仕事をされています。

中原先生は、仕事の現場に必要な能力の基盤としての基礎基本的な知識・技能をしっかり獲得することは当然とした上で、これからは「多くの人々と知的に格闘し、コトを為し遂げる経験」が大切になる。みんなで議論する経験、誰かに情報発信する経験、人を巻き込み何かを成し遂げる経験、そうした経験ベースの学びが高校時代に必要だと言われています。企業側や人材育成の立場からすると、知識の量、与えられた問題を正確に解く能力だけではなく、課題そのものを見つけ、正解のない問題にみんなで議論しながら根気強く取り組む姿勢を、高校・大学時代に身につけて欲しいということです。

昨年4月から始まった4D-Labは、まさに「多くの人々と知的に格闘し、コトを為し遂げる経験」そのものです。簡単に答えがわかってしまう課題では、スリルあふれる知的格闘は望めません。わからないこと、簡単には解決策が見いだせないことを、一人一人の持っている知識を総動員し、頭をフル回転させて考える経験を積んで欲しいと思います。みなさんのラボでの課題探求がさらに深掘りされ、深化していくことを期待しています。

さて、ここまで大人として、社会人として自立するために必要な資質・能力について、二つの例を紹介してきました。面谷さんの自立した生活者としての視点、中原先生の仕事の現場からの視点、私には、どちらも自立した人間のあるべき姿を別々の面から見ているように思えます。譬えて言えば、同じ山頂目指して別々のルートから登っているときに見える風景が違うようなもので、どちらも最終目的地は同じです。

基礎基本的な知識基盤を持ち、自分と社会の関係性を客観的に理解した上で、自分の軸を堅持しながら他者と協働して困難な課題に挑戦できること。両者の考える自立した人間に必要な資質・能力は、おおよそこんな感じになるのではないのでしょうか。そして、これらの資質・能力が、4D-Labを通じてみなさんに身につけて欲しい「5つの力」、すなわち視野の広さ、冒険心、向上心、共感、専門性の五つとも一致しているとは思いませんか。

今、日本や世界は大きな転換期にあります。変化が早く先を見通すことが困難な厳しい時代をみなさんは生きていかなくてはならない。学校で学んだ高度な知識や専門性も、うかうかしているとすぐに時代遅れになってしまうので、知識を常にアップデートしなければなりません。グローバル化が進み、さまざまな国々の多様な人々と一緒に働くことは、もはや当たり前です。さらに近い将来、単純で定型的分析的な仕事はAI（人工知能）が担うようになるでしょうから、私たち人間は、よりクリエイティブな思考力を必要とする分野に活路を見いだす必要があるでしょう。大変な時代がもうすぐそこまで来ています。

しかし、どんなに厳しい時代であっても、面谷さんや中原先生、そして本校の「5つの力」が掲げる資質・能力さえあなたに備わっていれば、必ず社会の中であなたの果たすべき役割は見つかり、そして心豊かな人生を過ごすことができるはずです。

最後に、みなさんの高校生活が実り豊かなものになることを祈って、この式辞を終えます。ご卒業、おめでとう。

平成 29 年 3 月 18 日

東京電機大学中学校  
校長 大久保 靖

#### 参考文献

面谷 園子「障害ある息子と歩む」(朝日新聞 2007 年 7 月 9 日朝刊掲載)

益田 ミリ「心震えたあの言葉」(朝日新聞 2016 年 8 月 19 日朝刊掲載)

中原淳 日本教育研究イノベーションセンター編著

『アクティブ・ラーナーを育てる高校』(学事出版 2016 年 12 月刊)